

第4回 動力ボートの効果的活用による救助技術の高度化に関する検討会

－ 議事概要 －

1. 日時：平成31年2月18日（月）15:00～17:00

2. 場所：東京八重洲ホール 901 会議室

3. 出席者（敬称略）

委員：安倍 淳、石川 仁憲、森 孝紘（代理）、濱中 洋尚（代理）、菊地 太、河野 順、
小林 恭一、田辺 晃、東城 英雄、山岡 宏、吉村 高寛、吉永 忠司（代理）、稲継 丈大、
岡本 拓司、川勝 隆、東谷 浩二、
特別報告：御影 雅良

4. 議事内容

（1）委員紹介

（2）議題

- ・事務局より、「平成30年度救助技術の高度化等に関する検討会報告書（案）」について、第1検討会報告書1頁から70頁まで説明

【質疑・意見】

- ・11頁 ライフジャケットの着用について
（委員）「型式認定」ではなく、「型式承認」という言葉が適切である
- ・事務局より、第2の動力ボートの効果的活用指針 序章から第2章まで説明
【質疑・意見】
 - ・78頁 積載資機材の法定備品の表について
（委員） 第3回検討会でこの修正版を資料6で配っていたが、そちらに訂正をしてほしい
 - ・75頁 レッドゾーンにおける、エンジン側の書き方について
（委員） レッドゾーンには救助者と操縦者がみんなでカバーするという意味がある
そういう認識でこの言葉を使っていくと良い
（事務局）事務局も同様な認識であるので、そのような書き方をしていく
- ・事務局より、第2の動力ボートの効果的活用指針 第3章、第4章、第5章まで説明
【質疑・意見】
 - ・107頁 救助活動に適した型式承認が取れているものを活用する必要があるという記載について
（委員） 救助活動に適しているかどうかという判断基準で型式承認にはなっていない
型式承認が取れたものが必ず救助に向いているということではない
（事務局）書き方について、またご相談させていただく
 - ・71頁 本指針の活用要領について

(委員) 各章の構成を踏まえて、何が基本で、どこからが救助なのかということを明確にすべき

(事務局) 順序立てた整理の仕方を考えていく

- ・ 104 頁 斜路/砂浜への着岸の留意事項について

(委員) 砂浜の場合は着底で船外機が自然に跳ね上がるのでチルトロックをしないでそのまま乗り揚げることも可能であるという表現は、破損の可能性もあるので削除すると良い

(事務局) 記載すれば誤解を招くのであれば、記載しないようにする

- ・ 104 頁の船首着岸という技術について

(委員) これは標準的な操作技術ではなく、もし載せるのであれば別枠で載せた方が良い

(事務局) 参考技量として誤解のないような内容な記載にする。個別に相談もさせていただく

- ・ 事務局から第 6 章、第 7 章、参考資料までの説明

【質疑・意見】

- ・ 122 頁 第 6 章 点検整備要領について

(委員) 点検整備について、記録やログを取るような記載をしても良いのでは

(事務局) 問題ないと思いますので、検討させていただく

- ・ 109 頁 緊急エンジン停止コードに関する記載について

(委員) 緊急エンジン停止コードを緊急エンジン停止スイッチから外すという記載にしてほしい

- ・ 復原の訓練に関する記載

(委員) ライフセービングでは復原訓練は最低限取得すべき技術として国際的に推奨している

(委員) 復原の訓練に関する記載を入れること

(事務局) 復原ロープについて相談したい

(委員) 復原ロープの要領については、復原という意味において記載してもよいが、どれくらいの長さをどのあたりに付けるのか等、正確な情報も盛り込むべき

(委員) 復原ロープを付けるのは、標準的な意味ではなくアドバンス的な意味

(座長) この点の書き方も。またご相談というかたちにすること

- ・ 141 頁の三角波の用語について

(委員) 三角波と合成波について再確認してはどうか

(事務局) 三角波はオフィシャルな教本から取っている。

- ・ 152 頁 第 2 節の船舶検査・法定備品について

(委員) 法定備品に関して言及していないので、法定備品の文言は取ったほうが良い

(事務局) 削除します

(3) 研修機関紹介

- ・ JPBOT (日本小型水難救助艇操縦士養成所) の紹介
- ・ 日本ライフセービング協会のご紹介、
- ・ アトランティック・パシフィックのご紹介

(4) その他

- ・事務局より、今後の予定について説明

(6) 閉会

- ・消防庁国民保護・防災部参事官より挨拶

以上